

## 情報通信審議会 郵政政策部会（第33回）議事録

### 1 日時

令和5年7月27日（木） 10時00分～11時25分

### 2 場所

総務省 Web会議による開催

### 3 出席者

#### （1）委員（敬称略）

米山 高生（部会長）、東條 吉純（部会長代理）、荒牧 知子、  
桑津 浩太郎、甲田 恵子、横田 純子（以上6名）

#### （2）総務省

柘植 芳文（総務副大臣）

（郵政行政部）

玉田 康人（郵政行政部長）、三島 由佳（企画課長）、  
折笠 史典（郵便課長）

#### （3）ヒアリング対象者（敬称略）

（日本郵便株式会社）

五味 儀裕（執行役員）、古閑 圭一（郵便・物流業務統括部長）

#### （4）事務局

久保田 昌利（情報流通行政局情報通信政策課総合通信管理室長）

### 4 議題

「デジタル社会における郵便局の地域貢献の在り方」について

【令和4年10月14日付け諮問第1235号】

## 開 会

○米山部会長 　ただいまから情報通信審議会第33回郵政政策部会を開催いたします。

　本日は、委員6名中6名が出席されておりますので、定足数を満たしております。

　本日は、柘植総務副大臣に御出席いただいております。ウェブ会議となりますので、皆様、御発言の際は、先ほど事務局から申し上げましたように、マイク及びカメラをオンにし、お名のりになってから御発言をお願いいたします。

　また、本日の会議の傍聴につきましては、ウェブ会議システムによる音声のみでの傍聴とさせていただきます。

　初めに、前回の部会以降、総務省幹部の皆様には人事異動があったと伺っております。事務局から御紹介いただけたことですので、よろしくをお願いいたします。

○久保田総合通信管理室長 　それでは、当会議に出席している異動があった幹部職員につきまして、順に御紹介をさせていただきますので、それぞれ一言ずつ御挨拶をお願いいたします。

　まず、玉田郵政行政部長です。

○玉田郵政行政部長 　玉田でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○久保田総合通信管理室長 　続きまして、三島企画課長です。

○三島企画課長 　三島でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○久保田総合通信管理室長 　最後に、折笠郵便課長です。

○折笠郵便課長 　折笠でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○米山部会長 　ありがとうございました。

## 議 題

「デジタル社会における郵便局の地域貢献の在り方」について

【令和4年10月14日付け諮問第1235号】

○米山部会長 　それでは、お手元の議事次第に従いまして、議事を進めてまいります。

　本日は、前回に引き続き「デジタル社会における郵便局の地域貢献の在り方」について審議を行います。

　それでは、まず、日本郵便株式会社郵便・物流業務統括部、古閑部長から、資料33

に基づきまして、御説明をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○古閑郵便・物流業務統括部長 日本郵便株式会社郵便・物流業務統括部の古閑と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、私のほうから資料33-1に沿って、郵便差出箱、郵便ポストの現状について御説明申し上げたいと思います。

2ページ目を御覧いただけますでしょうか。

郵便ポストの設置本数、こちらは2023年3月31日時点のものでございます。

現状、全国に設置しているポストの数ですが、約17万5,000本でございます。日本郵政公社発足後、2003年度末の本数と比較しますと、大体5.9%減少している状況でございます。本数でいうと、約1万1,000本の減少となっております。

委員の皆様のお手元には、都道府県別の増減率等の資料をお配りさせていただいておりますけれども、本数の減少率、地域によって濃淡がございまして、北海道、東北、北陸、九州といった地方については減少率が10%を超える都道府県もございます。一方、増えているところにつきましては、関東の都市部の1都3県のみという状況でございます。

こちらの資料上には参考値ということで、郵便物数の数値も折れ線グラフのほうでお示しさせていただいております。2003年度末のところを見ますと248億通。それが一番右端の2022年度末で見ますと144億通ということで、郵便物数については、この期間、大体4割程度の減という状況でございます。

次のページをお願いいたします。

こちら、先ほど申し上げましたポストの設置本数を市区町村の人口密度別に整理したものでございます。Aというものは、いわゆる人口密度が高い、多い市区町村、大体109自治体でございます。下に行くにつれて人口密度が低い自治体様という形になってございます。これはあくまで当社側の都合で、ひとまず5分類したというものでございます。

表を見ていただきますと、例えば、Aのグループの自治体で見ますと、109自治体ございまして、それぞれの自治体の中に置いてあるポストの平均本数というのが177本。こちらを1,000人当たりで何本置いてあるのかというふうに換算しますと、1,000人当たり0.9本置かれております。逆に、1本当たり、どれぐらいの世帯数をカバーしているのかと見ますと、1,308戸。

一番右の欄というのは、後ほど詳細は御説明しますが、弊社側で投函量の調査を今回させていただきました。その結果、投函量が少なかったポスト、具体的に申しますと、1か月で30通以下の投函となっているポストの割合、これはAグループの自治体でいいますと、大体2%ぐらいが存在するというものでございます。このような形で、A、B、C、D、E、それぞれのグループごとに人口密度とポストの相関関係を見てみたというものでございます。

上の表にまとめを書いてございますけれども、人口密度とポストの本数は比例してございます。Aグループでいうと、1自治体177本、一番下のEグループだと49本。ただ一方で、人口当たりの本数や1本当たり世帯数は反比例する傾向となっております。Eグループ、いわゆる過疎地につきましては、人口や世帯数に対するポストの設置本数は全国平均以上という状況でございます。

また、一番右側に記載してございます投函量が少ないポストの割合でございますが、これは人口密度が少なくなるにつれて、A、B、C、D、E、下のグループに行くにつれて、利用の少ないポストの割合が増加しているという傾向が見られるというものでございます。

次のページをお願いいたします。

こちらのページが、弊社側で、このたび利用状況の調査をした結果をまとめたものでございます。1年を通じて、平均的な状況として、今、どれぐらいの投函量があるのかというのを、ポストを取り集めている担当者へのヒアリングという形で6月に実施させていただきました。今回は、いわゆる少量の投函がなされているポストはどの程度全国にあるのか、そういった観点で調査したものでございます。

グルーピングでいいますと、1日1通程度投函されるというのが④の分類でございます。③の部分というのは数日に1通程度、②は週に1通程度、①の部分というのは、もうほとんど月に1通あるかないか、こういった4分類に当てはまるポストというのは、どこにありますか、こういった形でヒアリングしたものでございます。

結果については、中ほどの表でまとめてございます。総本数約17万5,000本のうち、月投函量が30通以下、①から④の合計値です。こちらについては全国約4万3,900本、総本数での割合でいうと25%。25%のポストが1か月投函量30通以下という結果でございます。内訳については表に記載のとおりでございます。

一番下の円グラフのところです。投函量が少ない理由について、簡単にまとめてござ

います。やはり一番多い理由としましては、周囲に世帯数が少ないと、ポストを御利用いただく住民の方がそもそも少ないという割合が50%以上を占めていると。それ以外には、駅や商業施設などの生活導線上にポストがない、あるいはすぐ隣に郵便局等があって、ポストをわざわざ使わなくても窓口に出しに行くと、そういったものがございました。

次のページをお願いいたします。

また、先日の部会のほうでも、委員の皆様から御指摘等いただきました郵便ポストの設置・撤去につきまして、こちらについても簡単にまとめさせていただきました。

郵便ポストでございますが、設置につきましては、郵便法の施行規則で定められた基準に基づきまして、弊社が定める内規に従って実施しているところでございます。

設置基準につきましては、ポツの1番目のところに規定を抜粋してございますけれども、廃止前の日本郵政公社法の施行の際、あまねく全国に設置されていた郵便ポストの本数を維持すること、また、各市区町村に満遍なく設置する、あるいはお客様の利便性のよいところ、また目につきやすい場所に設置する、こういった基準が設けられてございます。こうした基準に基づきまして、弊社側の社内規定につきましては、下のポツのほうで書いてございますけれども、例えば、市街地、住宅等が密集した地域であれば、利用見込みの戸数が200戸以上で、近隣のポストとの距離が250メートル以上、こういった基準で、なるべく多くのお客様に使い勝手のよい形でポストを設置するというような形で基準を定めてございます。

また、駅とか、後ほど申し上げますが、例えば、ショッピングセンターができましたとか、そういった状況の変化に応じて、利便性の向上が認められるのであれば、①、②に書いたような基準に当てはまらない場合でも、そこは設置するという形で運用もしてございます。

一方、撤去につきましては、今、御覧いただいている資料の下のほうに書いてございますけれども、例えば、状況が変わりまして、郵便ポストの設置場所として不適合となったような場合、あるいは地権者の方が転居等をされるといった、そういった状況の変化に伴いまして撤去をいたします。一旦撤去した結果、じゃあ、新しいポストをどこに置くかと考えたときに、今、使われている周辺のポストの利用通数、あるいは先ほど申し上げました郵便ポストの設置基準に照らしまして、例えばすぐ近くにポストがある、今、撤去したポストの利用が少ない、こういった場合には、総合的に判断して、新しい

ポストを入れずに、撤去したままになるというような形で運用しているというところがございます。ただ、あくまでも弊社としましては積極的にポストの撤去というのは行っているものではございませんが、今申し上げましたような社会情勢等、あるいは最近の状況の変化等に伴って、徐々に徐々に、ある意味、自然減みたいな形でポスト自体の本数は減ってきているという状況でございます。

次のページをお願いいたします。

こちらは弊社における郵便ポストの設置・撤去の手順をまとめたものでございます。詳細の説明は割愛させていただきますが、上の部分ですね。新しくポストを設置する端緒というのは、基本的には周辺住民のお客様の声ですとかいうものに基づきまして、設置基準に該当するのであれば、新しくポストを置くというのが主なものでございます。

一方、右側の、撤去につきましては、地権者様の御要望、あるいは周辺の道路事情の変化などを端緒に、利用通数等を踏まえて撤去を検討するという形で運用してございます。

次のページをお願いいたします。

こちら郵便ポストの直近の設置・撤去例を簡単にまとめさせていただきました。

上のほうの、新規設置につきましては、これは埼玉県の事例でございますが、大型の商業施設が開業して、それに伴いまして、マンション等、集合住宅が増加しましたと、住民の方も増えてきたので、地域の住民の方から設置要望をいただいたというものでございます。投函量についても、1日二、三百通ということで、かなりの利用をいただいているというものでございます。

一方、移設の例は、その次の表でございますけれども、こちらはポストを御利用される際に、路上駐車で交通事故等のおそれがあるということで、住民の方から撤去要望をいただきました。これを受けまして、一旦撤去いたしました。その後、また周辺住民の方から再設置の御要望をいただきまして、周辺状況を踏まえ、近隣の大型店舗の駐車場内へ新たに設置した、移設したというものでございます。

最後に撤去の事例、3つほど書いていますけれども、中ほどの、例えば、4番の事例でいいますと、郵便切手類の販売所が閉業したことに伴いまして、一旦撤去いたしました。ただ、撤去したポストからすぐ近くに別のポストが2本設置されていたこと、また、設置当時の投函量も1日平均5通程度というボリューム感でございましたので、こちらについては新たな移設は行わず撤去したというものでございます。

このような形で、新設、移設等については、主に地域住民の方のお声等を踏まえて検討する。撤去につきましては、ポストを置かせていただいている地権者様の転居、閉業等をきっかけに行うという事例が主立ったものとなります。

次のページをお願いいたします。

こちらは郵便ポストの利用想定ということで、ポストにつきましては、郵便局の窓口に行かずとも、24時間365日、いつでも非対面で郵便物を差し出していただくお客様の利用拠点として置かせていただいているものでございます。ポストに投函している商品種別、あるいは通数の定量的なデータは、すみません、把握してございませんけれども、御参考ということで、主にポストに入れられていると想定しているシーン等は表のほうにまとめさせていただいております。例えば、手紙、はがき、個人からの私信で出していただくもの、これが一番イメージしやすいものかとは思いますが。文書・書類、レターパック、後納ポストイン。後納ポストインというのは、通常、後納の郵便物というのは窓口のほうに出していただくのですけれども、当社がお貸しする専用ケースに後納郵便物を入れていただいて、ポストに出していただく、こういう取扱いも行ってございます。企業間、あるいは企業・個人間の文書の送付にも御利用いただいております。

また、クリックポスト、ゆうパケットポスト等々、いわゆる個人のお客様がフリマですとかオークション用の商品を気軽に出していただくために、ポスト投函を前提とした商品、サービスというのも、近年、積極的に展開しているところでございます。

次のページをお願いいたします。

こちらは郵便ポストの収集の状況ということで、改めて表のほうでまとめさせていただいております。

ポストの取り集め、収集は、原則、毎日実施してございます。収集の回数につきましては、1日1回から3回程度、日曜・祝日については1回、2回程度となっております。

また、取り集めの方法は大きく3パターンございますけれども、①兼集と呼ばれるもの、これはどちらかというと地方部でございしますが、郵便物を配達する担当者が、その配達のルート上にあるポストを配達と一緒に収集も行うというもので、兼集と呼んでいるものでございます。それが大体全体の23%程度。右側のほうが、収集のみを専担で行うようなパターンでございします。弊社の社員が行う場合もあれば、協力会社様に委託している場合もございします。合計すると8割程度というものでございします。

次のページ、お願いいたします。

こちらは御参考ということで、一般的な、いわゆる赤いポスト以外にも、全国に約300本程度、特殊な形、あるいはラッピング、あるいは赤以外の塗装を施した郵便ポストで、特殊郵便差出箱と呼んでいるものも設置してございます。主に自治体様からの寄附によって設置することが多くございます。あくまで特定の個人の方とか企業の宣伝用に御使用いただくのではなくて、地域振興など、公共の福祉に資する趣旨になるものについて、自治体様からの寄附による設置を条件として置かせていただいているものでございます。

郵便ポストの現状につきましては以上でございます。

○米山部会長 ありがとうございます。

続けて、日本郵便株式会社、五味執行役員から、資料33-2に基づきまして、御説明をお願いいたします。よろしく申し上げます。

○五味執行役員 日本郵便株式会社の五味でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、私のほうからは、資料33-2ということで、郵便ポストの活用可能性についての検討状況ということで、御紹介させていただきたいと思っております。

資料をおめくりいただきまして、1ページですけれども、郵便ポスト、今も説明させていただきましたとおり、身近な郵便物の差出拠点ということで必要不可欠なものということでございますけれども、一方で、今までの設置・廃止、あるいは取集業務、そういうものが全体としてアナログ的な運用ということになっている部分もございまして、非常に地方部を中心にして、なかなか利用の部分で、特に過疎地域のユニバーサルサービスというのを考えていく中でも、近年の環境変化というところも見据えまして、いろいろIoT技術ですとかデジタル技術の進展という部分も含めた業務効率化というところをしっかりと図っていく必要があるのかなということを考えてございます。

また、一方で、お客様接点というところの部分の中でも、差出利便性の向上でございますとか、あるいは安心・安全のまちづくりですとか、地域貢献、こういうような活用も含めて、郵便ポストというのを別の用途といいますか、地域の非常に身近なところにあるリアルな存在ということでございますので、こういったところを別の用途を含めて考えられないか、新たな価値を生めないかという観点も含めて、様々な検討を行ってございますので、現状の検討状況を御紹介させていただければと思っております。

2ページですけれども、こちらは業務の効率化に向けた検討ということで、様々過去



にもいろいろ検討してきているところがございますけれども、今回のもの、郵便ポストに、まさにあるかないか分からない、そのときに入っていない、ゼロ通というようなものもかなりあるところがございますので、例えば過疎地の郵便ポストに内蔵している低電力でつけられるカメラ、通信機能付きのカメラでございますけれども、このようなものを取り付けて、投函物があるかないかというのを判定し、定期的に郵便局とも連携する中で、ない場合には、そこに対しては行かなくてもいいという形にもなりますので、こういう情報をデジタル技術を使って連動できないかというような形、また、今、画像解析の技術も進んでございますので、AIによって画像解析をして、投函有無を判断して、そういうような部分の精度も含めて上げられないかということで、こんなようなことを考えてございます。

実証事件の結果ですけれども、3ページを御覧いただきますと、こちら側のポスト、この表、ちょっと見にくくて申し訳ありませんが、日別にポスト14か所に取り付けていますけれども、「○」が投函があったとき、「×」が投函がなかったときということで、かなり地方部の山間地のポストにつけたということでもありますけれども、例えば14番のポストを見ていただきますと、この期間中は、1か月弱ということになりますけれども、投函がなかったというようなところもありまして、かなりこういった中で、ありなしのところの判定、その部分を可視化するというところの中では、一定の成果があるのかなということを考えてございます。

一方で、通信のところ、しっかりと安定性を確保するという観点でございますとか、あるいは、ありなしのところの判断をやっているのですけれども、なかなかちょっと、先ほど撮った画像という部分もありますけれども、高精度ではあるんですけれども、認識精度も上がってきているんですが、収集判断をしていくときに、投函があるのに放っておかれるというようなことがあってはいけませんので、収集判断をしていく中ではさらに精度向上もしていく必要があるのかなという中で、課題も見えてきているところがございます。

結果・課題というのは3ページにも書かせていただいていますけれども、少し一定程度、そういう意味での判定というのは可能なのかなというのはございますけれども、通信環境のところの課題でございますとか、一番この手の議論で、過去にやってきている部分でも課題になってきているところなのですが、先ほど申しましたように、こういう地域というのは、兼集という形の中で、配達の上で郵便ポストを開けるというような

形の中で地域を回っておるものですから、なかなか1本のポストの収集がないような部分があっても、直接的なコスト効果という中では、一定程度、限定的というような部分がございます。投函があれば行かなきゃいけないというところもございますし、収集時刻直前までそういうようなものを、当然見ていかなきゃいけないというところもございますので、一方で、その部分の機器ですとか、そういうようなもの、あるいは運用するという中では、一定のコスト負担なんかも出てまいりますので、こういった中での費用対効果というのは、一つ課題になるのかなというところがございます。

4ページは、少しそういった実験も含めて俯瞰してという部分になりますけれども、例えばカメラの撮影ですとか通信機能という中で、画像認識で、投函物の有無を遠隔で把握するというところについては可能かなという部分でありますけれども、過去の実験でも、センサー類、例えば入口のところにセンサーを取り付けたらどうだとか、カメラのところも含めて、少しいろんな検証する中で、リアルタイムの投函数ですとか、詰まり、あふれというのが都市部で検証できないかというようなこととか、幾つかのお話あるのですが、先ほど申しましたとおり、コスト面、あるいはその部分を支える電源の面ですとか、そういうようなものが少しネックになってきたというところがございます。

技術なんかも進んでいますので、また解析のエンジンなんかも進んでいますので、より安価な技術・ソリューションという部分については、しっかり探索をしていく必要があるのかなということを思っております。

下の1、2というところは、少し今までのところのサマリーというのを、ちょっと文字が多くて申し訳ありませんけれども、書いていますけれども、特に日々の収集判断ですとか収集回数なんかも1日1回でやっているところもあって、地方部の中での効率化効果というのを出していく、積み重ねという部分もあるのですが、限界的な部分の中だけでは、リアルなコスト効果を出すというのがなかなか難しい。その費用負担を賄うところまでなかなかいかないという部分がございます。一方で、配置ですとか、先ほどの撤去も含めた判断というのをある程度定量的に行っていくという中では、こういった機能を実装するというところは、一つの考え方としてはあるのかなということは思っております。

一方で、非常に低電力で簡易な機器類ということの中で、コストを抑えるようなことというのも、かなり新しいソリューションの中でも出てきていますので、そういうもの

を取り入れて、様々取り付けてというのをやっているのですけれども、やはりポスト本数自体が多いものですから、なかなか設置だけでもかなりコストというのがかさんでくる。一方で、その効果の部分というのが限定的なものにとどまるという中で、このあたりで少し、いろいろな実装というところの中で悩んでおるといのが今の現状ということになります。

今後の方向性、書かせていただいていますけれども、設置・維持に係るユニバーサルサービス、今後も維持していくのが大前提ということでもありますけれども、ほかの部分も含めて、自治体に活用いただくとか、効率化の効果、どこまで出せるかというところについては、引き続きしっかり検討していきたいということを思っています。

少し出てまいりました地域貢献への活用というところが5ページ以降で書かせていただいています、ほかの付加価値を創設する、付加するアイデアというのがいろいろ考えられないかという中で、様々検討を重ねているところでございます。

ただ、何をするにも、センサーですとか、通信、電源の機能を付加していくというところの中での郵便ポストの高度化、こういうことが必須になってくるかなと思っていますので、こういったところの地域貢献への活用の可能性の検討というのを今させていたでているところでございます。

いずれもアイデアベースの部分というのがまだあるというところでもありますけれども、例えばポストそのものに通信の機能ですとか、そういうものを含めて付加していくことによって、例えば見守りですとか、地域の電源スポットになれないかですとか、そういうようなことを含めて今検討を進めているところで、少し6ページに事例といいますか、技術も含めて、今新たな取組で進めているもの、まとめさせていただいていますけれども、例えば6ページの左上にありますけれども、今スタートアップの企業さんと連携して、ソーラーチップとバッテリーを活用したコストフリーな電源確保というところの中で、ソーラーチップのようなもので給電できないかというもので少し書かせていただいています。これが災害時のときに緊急電源として開放していくとか、そういうことが考えられないかなということで、今スタートアップ企業と実証実験を検討しているところになります。

また、今のところ、中では、Bluetooth 通信のような機能をポストにつけることによって、ある意味でGPSの補完みたいな形になりますけれども、今、校門なんかにも、ここに書いているのですけど、例えば学校、通学するようなお子様の見守りみたいなと

ここで、ここのポストの前を通ったよ、校門のところを通ったよというところの中で、位置情報を正確な形で付加して、これは実は幾つかの会社さんから引き合いいただいて、実証できないかというところの中でやっているんですけど、このあたりも、コストやいろんなものも含めて、少し見ていかなきゃいけないということでもありますけれども、こういうタグみたいなものをつけて、ポストの前を通ったら、その情報というのを、親御さん含めてお伝えするというような見守りの機能を含めて使えないかというようなもの、通信の確保ですとか、右側にも書かせていただいていますけれども、4番のところは、実は並行してやっています郵便局データの利活用の検討の会の中でもいろいろ御指摘いただいて、今これはもう具体的に実装しようということですが、秋にも公開をしていきたいと思っていますけれども、ポストマップというサイトを運営しているスタートアップの企業さんなんかともいろいろ話をしているのですが、ポストの正確な位置情報というのが発信できていない。その辺のところの中での収集の情報ですとかいうようなものを、オープンデータというか、そういう形で出していく中で、より利便性を上げられないかということは、これは今、マスターも含めて、データ整備して、正確な位置情報、あるいは収集のところの時刻みたいなものというのでも発信をしていって、お客様の利便性が、より検索も含めて非常に利便性が上がるかなと思っていますので、こういうことは、やれることからしっかりやっていきたいなということを考えてございます。

以上、33-2ということの中で御紹介させていただきました。7ページは参照条文ということでの部分ですので、御参考にいただければと思います。

以上でございます。

○米山部会長　　どうもありがとうございました。

それでは、これまでの御説明2つについて、御意見、御質問はございますでしょうか。いつものとおり、御発言の際は、ウェブ会議システムのチャット機能で御質問、御意見のある旨を御入力いただけるようお願いいたします。その後、私から指名させていただきますので、指名された場合は、会議卓のマイク及びウェブ会議システムのカメラをオンにして、お名前をお名のりいただいた後に御発言をお願いいたします。よろしくお願ひします。

それでは、桑津委員から発言の希望がございますので、よろしくお願ひいたします。

○桑津委員　　桑津です。どうもありがとうございます。私のほうでも一言コメントさせ

ていただきたいと思います。

改めまして、ポストの状況というのを理解できました。どうもありがとうございます。予想はしていたのですけれども、やはりユニバーサルサービスという特質上、ある意味、非常に効率だけではかっちゃいけないのですけど、悪いポストがたくさんあるんだなというところが理解できました。

その一方で、これは当然ユニバーサルサービスですので撤去はできませんよということ考えたときに、I o T等を活用した、ここで御検討されていた、要は、もし集配、集荷する荷物といいますか郵便物がないのであれば、兼務で行く途中で見るとしたら、それでもいいのですけど、そうじゃない場合は、ルートをダイナミックに設定して、そこはパスするという取組は当然あってしかるべきだと思います。

私はI o T関連分野で、自動販売機関連とか、これは結構大昔で、20年以上前からやっているのですけど、あちらは集めるのではなくて配送ですけれども、やはり在庫がまだ余裕あるときは補充に行かない、逆に在庫があつと言う間になくなっている場合は補充に行かなきゃいけないということで、個別にネットワークを使って位置を確認。位置といいますか、状況を見ていこうというような取組は、かなり昔からやられていまして、予想以上に効果が上がっています。現在は、特に自動販売機の集荷、配送って、昨今の物流の人手不足も相まって、結構状況厳しくなっていて、ここやっぱりかなり、ある程度お金をかけて対応せざるを得ないという認識が出たと思います。そういう面で、費用対効果を検討するのももちろん重要なのですが、一つ一つのところは、そこまでペイしないよという計算になるのかもしれないけれども、結果的に働く方の負荷が下がって、いわゆる人手不足への対応能力というのは高まるんだよという方向感是十分出るのでろうというように思っております。その面で、I o T系の技術を使って、カメラの判断とか、プライバシーとか、いろんな課題はあるのですけれども、ある意味、はがき、手紙等郵便物が来ていないポストに関しては配送時のルートをパスする方向で考えるというのは、当然これはやらなきゃいけないことなんじゃないのかなというように思います。そういう面で、基本的には前向きですし、ぜひ進めていくべきなのだろうと思います。

以上でございます。どうもありがとうございました。

○米山部会長　ありがとうございます。

これについて、日本郵便の五味役員から何かございますでしょうか。

○五味執行役員 桑津委員、ありがとうございます。基本的に委員がおっしゃるとおりのお話かなと思っていまして、同じ着眼点で、まさにそういう形での、今の、先ほど申し上げた実証実験も含めて御紹介した結果まで見ても、なかなか、やはり毎日毎日というところの中でも、かなりゼロ通というようなものも地方部の中では一定程度出ているというのが、程度のデータも含めて明らかになってきているということでございます。

こういうようなものについては、わざわざそのところで、昨今の、まさに我々も直面しているわけですが、物流の2024年問題ですとか、人手不足というのが非常に深刻になってくるという部分もございますので、そういったところも含めて、入っていないポストを無理に集めに行き、それが入っていないというようなことというのは、貴重な人的な資源といえますか、そういうようなものをそういう形に当てるということではなくて、当然そういうものについては、デジタル技術を含めてつながって、そういうようなものをパスしていく、そういうようなものも含めて取組としてやっていくというのが大きな方向性として、そういうことを考えていかなきゃいけないというのは、まさにそういう問題意識でやっているところです。

一方で、ベンディングと若干違って、我々自身も悩んでいるのが、桑津委員も御指摘いただきましたけれども、まさに配送途上でやっている、配達自体というのは、まだまだ減っているといっても、2軒に1通とか3軒に1通程度のところで一定程度出ている。そういう形で、民家も含めて、各御家庭に回っているという部分もございますので、ある意味で、そのルート上のところでやっている部分の限界的な部分、業務負荷というところでは、その中での定量効果というのがちょっと難しい、こういうものの課題があるんですが、いずれにしても、そういうような部分の、これから郵便物の配達や、そういうようなものも減ってくるころではありますし、だからといって、それをそのまま放っておいて、ある意味で、誤解を恐れずに申し上げれば、無駄な作業といえますか、そういうことに当てていくという方向性にはならないのかなと思っておりますので、できるだけ、様々、もちろんそういう課題とか、幾つかの話というのはあるわけですが、できるだけ積極的に、こういう部分の実証というところについては取り組んでいきたいというのが今の方向性でございます。ありがとうございます。

○米山部会長 ありがとうございます。

それでは、続けて荒牧委員から、よろしくお願ひします。

○荒牧委員 荒牧でございます。御説明ありがとうございます。非常に現状というか、

リアルな数字として、よく分かりまして、参考になりました。

基本的に、これだけの網羅した本数があるものを、新しい用途として活用していくという方向性に関しては、個人的にも大賛成です。

一方で、先ほどからちょっと話も出ていますけれども、2024年問題で、今後配送とかいろんな面で、効率化していかないといけない。クロネコヤマトさんのメール便と協業していくという報道発表がありましたけれども、恐らく今、企業で、まとめて郵便物を出すときに、クロネコヤマトさん使っているところが、かなりたくさんあるという感覚です。もともとコストというのが、郵便物の収集ですよ。そういう一番の役割が、ヤマトさんと一緒になるということになると、例えば、コンビニで出せたりとか、ヤマトの配送員の方が回収したりとか、大きく流れが変わっていく中で、ポストというものの従来の最大の役割が限りなく小さくなっていくのではないかなと。ですから、郵便とポストという関係性が、かなり希薄になってきて、全く新しい形で考えていく、いいタイミングなのではないかなと考えています。

ですから、その意味では、できるかどうかは別として、ポストによる収集ではなくて、コンビニであったり、ヤマトさんの営業所であったり、何かこういった違った窓口でも相互に連携できるような仕組みになっていけば、過疎地におけるポストの必要性を、また新たな切り口で検討できるのではないかなと思います。

それから、先ほど桑津委員がおっしゃられた効率化の部分ですけれども、日本郵便さんとして、ユニバーサルサービスという大前提があるので制約はあるのですけれども、特殊な民営化した会社であるとはいえ、やはり一般株主さんがいらっしゃる中では、一株式会社としては、効率化を進めていくというのは、切って外せない課題だと思いますので、そこは今後、コストカット、効率化という点は、ある程度ダイナミックに進めていく必要があるのかなと思います。

私のほうからは以上です。

○米山部会長 ありがとうございます。これはコメントということでしょうか。御質問ということでしょうか。

○荒牧委員 いや、多分、ヤマトさんのこともすぐにお答えできる状況ではないと思いますので。

○米山部会長 コメントということでしょうか。

○荒牧委員 はい。結構です。

○米山部会長　　ありがとうございました。貴重なコメント、ありがとうございます。

次は、横田委員からお願いします。

○横田委員　　横田です。説明いろいろとありがとうございました。

前回、ポストの活用ということでお話をいただいたときに、その後、私もポストの集荷を気にして、すいません、集荷している方を後ろから見たりとかしていたのですが、入れ物を、正直、ほかに活用するというのが、私にはもう全然思いつかなくて、先ほど御提案で、こういう形でというところで、多分もうそこが本当にできる範囲なのかなというところを感じています。

1つ御意見させていただくと、先ほどの実証実験を見せていただいたときに、本当に集荷がもうない、1週間に1回といったような地域で、今日はある、今日はないという頻度ならば、集荷にI o Tを活用することも分かるのですが、どうしても本当に全然ないというところに、イニシャルとランニングをかけるのは、ちょっと費用対効果としてどうなのかなというのが個人的に思っています。ここはもう本当に来ないよというのだったら、集荷は1日1回とか、お金をかけずに集荷を見直すという方法も御検討いただけたらどうかなというのが私の意見です。

以上です。

○米山部会長　　どうもありがとうございました。御意見、ありがとうございます。

何か、五味役員、どうぞ。

○五味執行役員　　横田委員、ありがとうございます。

まさにそのあたりの部分というのも、非常に我々の悩んでいるところでございまして、全くない、ポストそのものが生み出す、なかなかそういう中で、御利用そのものが非常に限定的なところに対して、イニシャル、ランニング、それを集めに行く、あることを所与にしながらという中でのコスト面でというところの視点で、一定、我々欠いている部分はあるんですが、もう少しそもそもに立ち返ったときに、そういったところに対して、ランニングコストとして一定のものをかけるというのは、それが例えば月に1通とか、それが入っているところに対して、月に1通が仮に63円とか、そういうような感じだったとしますと、その部分に対して、例えば何百円であっても、そういうものをかけていくというのは、若干そういう中でいうと、やや違和感がある、そういうようなものもあるのかなと思います。これは少しそういう形のデータも積み上げながらで、どのようにやっていくのか。



一方で、桑津委員からお話もありましたけれども、やらないというようなことではな  
いかなと思っているのですが、ただ、どういうやり方あるのか。

一方で、そこに対しての、あまり過剰投資にならないように、アプローチというか、  
荒牧委員からもございましたけれども、株式会社、事業体というような側面も持ってい  
る部分もありますので、そういったところへのコストを含めた負担の在り方みたいなど  
ころは、会社としてもしっかり考えていかなきゃいけない、そういうようなものはある  
のかなと。

また、先ほども荒牧委員からもございましたけれども、ヤマトさんとの協業について  
は、直接は今、郵便受箱投函型の商品というのをいただきながら、我々が配っていくと  
いうことではありますけれども、ただ、郵便、ある意味ではメール便やパケット、いろ  
んな形での利用行動というのが、かなりその協業も含めて変わってくるものではあり  
ますので、そこに向けたときの、じゃあ、その新たな事業環境に置いたときのポストの  
役割ですとかいうものについては、一定、絶えず考えていかなきゃいけないのかなとい  
うことの認識は持っております。

すいません。ありがとうございます。

○横田委員　　すいません。本当にいろいろ大変だと思いますが、御検討、いろいろとよ  
ろしく願いいたします。

○米山部会長　　どうもありがとうございました。

それでは、甲田委員、よろしく申し上げます。

○甲田委員　　ありがとうございました。株式会社A s M a m aの甲田と申します。

私ども全国で生活者の方々に寄り添って、子育てや暮らしの共助を行っている観点か  
ら、生活者視点から少し意見や質問のほうをさせていただきたいと思っております、  
3点あります。

1つは、郵便局というのが全国各地にあるので、郵便ポストではなく、できるだけ郵  
便局に誘導するということによって、対面窓口への誘導というところによって、高齢者  
の方々と対話するみたいな機会をどんどん増やしていこうというふうにすることで、よ  
り使われるポストとそうじゃないポストというところが精査できてくるのではないかな  
と。対面的なコミュニケーションというのを、もっともっと高齢者が多い地域では大事  
にするというのが1点あるのではないかなと思ったことが1つです。

2点目には、もう少し先を見据えると、人が人海戦術でポストの中身を回収しに行く

というのではなくて、自動運転を活用した回収であるとか、ドローンを活用して回収するルートを確認するとか、より先進的なIoTを活用していくことによる人件費の削減というところも検討されてよいのではないかなと思ったところが2点目です。

最後に、全国でいろいろ活動していると、どこに声を出したらいいかわからないという暮らし、住民の方々の声って、よく聞くんです。役所に行けばいいのか、民間に行けばいいのか、どこの相談窓口で電話したらいいのかわからないみたいな、そういう地域の方々の困り事を、きちんと発信元の住所とか名前を書いていただくことで、郵便ポストが、郵便局が代理回収するというようなことなんかもできて、地域の業者さんだったり、行政の窓口だったりというところにつながるというところの業務を受託することで、新たな事業展開を図るみたいなことなんかもあるのかないかみたいなことなんか、非常に興味あるなと思いました。

以上です。

○米山部会長 3点、コメント、御意見ありがとうございます。何か、どうぞ。

○五味執行役員 甲田委員、ありがとうございます。

まさにおっしゃっていただいたとおり、我々、ポストもそうなのですけれども、2万4,000、郵便局の窓口というのを持っていて、そこを対面コミュニケーションの部分の拠点として付加価値を高めていく。従来型の業務のところの中でいいますと、どちらかというと非対面ですとかセルフということの中でできる業務というのは、当然、金融の分野でも、また、これは郵便の分野も含めてで、いろんな形で技術の進展とともにできるようなこともあるわけですが、一方でリアルな拠点として持っている部分の価値というのは、そういう時代だからこそ、ある意味そこで見直して行って、そのところの直接の接点という部分を大事にした付加価値の創出を図っていくというのが、郵便局運営、郵便局の窓口も含めた、そういう形の拠点を運営していくのに重要ななと思っていまして、一方で、その部分を事業体としてどのようにマネタイズしていくかというところを考えていったときに、例えば今、自治体のところの事務の受託でございますとか、少し問題になってはいますが、マイナンバーの手続のサポートみたいなことをさせていただくとか、様々な用途含めて、この対面接点というような、お客様により身近なところの中での対面の接点、特に地方部における高齢者様を含めたサポートですとか、そういうところにどのように役立てていくかというのが非常に重要な観点で、そのために、これはポストのところの利便性との兼ね合いで論じる論点かというのは、ち

よつと議論あるかなと思いますけれども、いずれにしても来局そのものを、より使いやすい身近な存在というところの付加価値を高めていって、この郵便局の付加価値というのをより出していくというのは、これは我々に課せられた非常に大きな方向性かなと思いますので、そこは委員の御認識のとおりかなと思いますので、我々ももっとそういう形の対面窓口の付加価値というところを訴求できるように、様々なサービス展開も含めて考えていきたいなというのが一つでございます。

2つ目のところの自動運転ですとかドローン、まさに過疎地高齢化の中で、それを担う人手そのものの確保という部分も、かなりいわゆる限界集落と言われているところで、そういう中では、それを担う、その人手の部分でも確保がかなり厳しくなっているというのが今現状としてございます。

そういった中で、特に山間部において、配達のところドローンを使っていくような形の取組み、これはある意味で多頻度、軽量で、我々は郵便配達や、そういうようなものを行っているわけですから、ある意味で、ドローンなんかでいうと、比較的親和性のある、そういう形のものかなということもございまして、これはそれぞれ他社さんも含めて、いろんな御意見あるかもしれませんが、我々は、私どもが非常にこの分野の中では先行しているのかなという自負を持って、様々な実証実験を積極的に取り組ませていただいているというのがございます。

ただ一方で、配達するというところの中では、一定、場所に落とすみたいなのはありますけれども、ピックアップして出すところの部分というのは、今の技術の中では、比較的それを据え付けて送り出すというようなことで、ピックアップしてというようなものが、なかなかちょっと技術的に、そこまで検討が進んでいないというか、どちらかというところ、対面でぽとっと落とすところの部分というのはできるので、配達の領域では一定、そういうことをやっておるんですけれども、なかなか集めてくる部分は技術的に難易度が高いというのも、これまでの技術の中で見えてきているところもありますので、ただ、これも技術の進歩や、いろんなところの中での様々なものもございまして、このドローンを含めた、自動運転を含めた、そういう形の技術というのも一定、視野に入れる中で、どのような省人化ですとか効率化というのが図れるかというのは極めて重要な観点だと思いますので、ここに向けての実証実験というのは継続的に取り組んでいかなければいけないなと、そんなことで認識してございます。

また、3点目のところ、非常に貴重な御示唆だと思いますけれども、例えばポストの

ところで、地域の困り事ですか、そういうようなものをつないでいく。ある意味で郵便局という、先ほどの1点目の質問にも重なると思いますけれども、やはり地域に身近な存在として、ポストの付加価値というのをどういうふうに考えていくかというところが非常に重要な観点だと思うのですね。

そういったときに、少し委員からいただいたよろず相談的なもの、どこまでどういう形でというのをいただいて、それをどういうふうに運んでみたいなところはあるかなと思うのですけれども、少なくとも地域の皆さんと、私信というか、そういうものをお受けする媒体というか、一つのアクセスポイントとしてのポストというのは、ある観点でもあるだろうと思いますし、既存の郵便の仕組みを使ってでも、いろいろこの受皿みたいところで、つなぎ先みたいなところも含めてということの仕組みの整備ということかなと思いますけれども、いずれにしてもそういう形の中で、ポストの新たな利用の用途というか、お役立ちの方法という部分を模索していくというのが極めて重要かなと思いますし、そういうよろず相談的なところは、窓口としてもそうですし、ポストもそういう形で役立てられないかというのは非常に貴重な御示唆だと思いますし、我々も会社の中で、そういう問題意識を持ちながら取り組んでいるところでございますので、引き続きいろいろアドバイスいただければと思います。

我々もそういう形の中で、よりちょっと便利さというのを実感していただけるような、そういう形の郵便局、あるいはポストというところの在り方も含めて考えていきたいなと思っています。貴重な御意見ありがとうございます。

○甲田委員　ありがとうございます。

○米山部会長　ありがとうございました。

それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

それでは、ちょっと先ほど荒牧委員の御意見というコメントに対して、もし、五味役員、何か回答というか、現時点でのお考えがあればいかがでしょうか。

○五味執行役員　ありがとうございます。

ヤマトさんとの協業の部分も含めて、少し言及いただいたと思うのですけれども、直近ですと、先ほど横田委員の回答の際にも少し申し上げましたが、今回の直近でいうところの協業というのは、いわゆるヤマト様のメール便商品ですね、クロネコDM便ですかネコポストと言われているような商品ですけれども、そういう配達のときに郵便受箱投函型で行うような形の商品について、先方のほうで、ヤマトさんの、今クロネコDM

便と言っているものをクロネコゆうメール、今ネコポスと言っているものをクロネコゆうパッケージという形で、商品そのものを変えて、実際にお客様窓口ですとか、ヤマト様の中での商品の変更ということですので、お客様接点そのものはヤマトさんのほうでやられていくわけですけれども、そのところを郵便局の拠点のほうに差出側の中で持ち込んでいただいて、我々のほうでは、そこからの地域からの輸送ですとか、最後のデリバリー、配送の部分というのを私どものほうでお受けするというような、そういう形の協業の内容ということで発表させていただいている。

そこそのもので、先ほど委員からも御進言ありましたけれども、将来的にどういうふうに設計していくかというような論点というのがあるわけですけれども、直近の協業という中では、郵便物そのものの引受けでございますとか、その中で果たすポストの役割という部分が、今、直ちにヤマトさんのものをお受けするという中で、それはヤマトさんの営業所で何か郵便物を引き受けたりですとか、そういうところを直接やるということではないわけですけれども、ただ将来的に、委員のおっしゃっているのは、もう少し中長期の部分も含めて、ポストのあり方、あるいは郵便物の引受けチャンネルとしての、例えばコンビニだとか、営業所だとか、いろんなものが、郵便局も含めてですけど、そういうものがいろいろ多様化してくる中でのポストの役割の変化というのが御示唆の中身だったかなと思いますので、そこはその部分で、まさに今、冒頭にも御紹介させていただきましたが、郵便物の構成というのも減っている。一方で、ゆうパッケージと言われているような形の小型商品のポスト投函型の商品というのは、ECですとかフリーマーケットですとか、そういうようなものの中で比較的強い形になっているんですね。

そういうことで構造変化なんかも起こってくる中でのポストそのものの役割の変化ですとかあり方、そういうようなものを、しっかりマクロな市場関係の中で見据えていく、あるいはその代替手段も含めて、そういったところがどういう動きになっているかというのを見据えていくというのが重要だという形の御指摘だと思います。

そこはまさにおっしゃるとおりです。役割というか、そういう物の見方というか、利用シーンみたいなところの言及もありましたけれども、そういったところをもう少し解像度を高くしていったって、より新しい時代におけるポストの役割、あるいはそういうものをさらに訴求していけるような、我々の会社としての取組みたいところは極めて重要なかなということを思っております。すみません。御回答、コメントになっていればと思いますが。

○米山部会長　　どうもありがとうございました。

それでは、ほかに何かございませんでしょうか。

では、私から一つ、古閑部長の御説明について、1点、御質問させていただきたいのですが、ポストは中長期的に緩やかな減少ぎみなのですけれども、お客様の意向も踏まえて、かなり慎重に改廃を対応してくださっていると、そういった面はよく理解できました。

さはさりながら、減少傾向というのは結構続いているわけで、これが具体的にどのくらい続くのかと。先ほどの25%がどちらかというと集配厳しいもので、25%まで減少することはないと思うのですけれども、この先、減少傾向はどんな感じでいくか、予想がつけば、よろしく願いいたします。

○古閑郵便・物流業務統括部長　　日本郵便株式会社の古閑でございます。

先ほど委員からおっしゃっていただいたとおり、我々、弊社側としては、やはり郵便ポスト自体はお客様にとって郵便物を手軽にお出しいただく重要な拠点と考えてございますので、御利用が少ないから、じゃあ、直ちに撤去みたいな運用は、これまで全くしてございません。

ただ、残念ながら、何らかのきっかけで、今そこにあるポストを撤去しなければならなくなったときに、ほかに適当な場所がないとなってしまうと、今、資料で書いていただいているような形で、徐々に徐々に減少してしまっているというのが実情でございます。

じゃあ、どこまで、今後行ってしまうのかというのは、正直、私どもとしても何とも難しいところあるのですけれども、ただ、やはりポストの利用、今は郵便物を出していただくという、本当にその単機能でございますが、今回、テーマにさせていただいているような、いわゆる郵便物をお出しいただく機能以外の部分で、どんな活用ができないか、そういった部分も含めて、ポストを有効に活用できるような道というのを探っていきたいと、この減少トレンド。郵便物の減少トレンドは、さらに進んでしまっていますけれども、ポスト自体も、なかなか減少の状況を食い止めるのは、正直厳しいところはあるかなというのが実情でございます。

すみません。なかなか回答しにくいところがあって申し訳ないのですけれども。

○米山部会長　　どうもありがとうございます。

日本郵便株式会社のポストに対する基本的な姿勢が確認できましたので、どうもあり

がとうございました。

ただいまポストの活用方法ということをお指摘されましたが、それについては五味役員のほうから、様々なアイデアが出てきて、ポストをよりスマートなポストにすることで、いろんなアイデアが出て、それが実現していくといいと思うのですが、その一方で、各委員からもありましたように、効率化の問題、集配の効率化の問題というものが厳然と存在しているということで、なかなか大変なことだと思います。

そこで、1点、集配の効率化について、質問というか、意見というか、そういったものがあるのですが、先ほどの集配の1と2、3。2、3はまとめて考えていいかもしれませんが、1の集配に関しては、これは柔軟な形で対応していくということではよろしいかと思うのですが、2、3と、これは一緒くたにして効率化というのも、ちょっと何か難しいかなという気がして、やはり集配の効率化を抜本的に考えるときには、それぞれ別の形で考えたらよろしいのではないかと私は考えます。

例えば、2、3のほうですと、もう、ある意味では都市部なので、かなり抜本的なポストの配置替えも含めて、集配効率を前提としたポスト配置を考えると。つまり集配の車が一筆書をするときに、あっち行ったりこっち行ったりしないような、そういう理想的な集配を考えた上でポスト配置をしてしまう。これは言うは易し、行うは難しなのですが、実験的にある地域ですべてしてしまっていて、効率実験をしてみるということも何かありではないかなと思う次第です。

その辺、効率に当たって、1と2、3分けて考えて、1はちょっと抜本的に考えてみるという、あるいは実験してみるという方向性については、ちょっといかがでしょうか。ちょっと大ざっぱな乱暴な意見かも知れませんが。五味役員、いかがでしょうか。

○五味執行役員 米山部会長、ありがとうございます。

どちらかという、今までは既存のポスト、これは先ほど申し上げたように、設置をしたそれぞれのポストの時期といいますか、歴史的なものまで含めて考えますと、かなり年数がたっている。逆に、裏返して申し上げれば、先ほどグラフとか、いろんなものも出ささせていただきましたけれども、まさに200億通を超えるような形の取扱いをしていたときのポストの配置ですとか、どちらかという郵便が少し2001年までは右肩上がりで取扱いが伸びていたわけですが、そういった時代に設置をされてきた、どちらかというお客様からのアクセスや利便性の向上という部分を中心にして配置を

してきた、それが意味で今の現有のポストのところに踏襲されている。

結果として、それが交通事情の変化や、いろんなものもあるわけですが、どちらかというと、部会長がおっしゃったような形の、私どものルートですとか、そういうようなもの、変な言い方ですけど、大通りといいますか、大きな通りのところの中で、こっちにあるか、左にあるか右にあるかによっても、全然その部分の効率なんか、一部違うところや、そういうようなものもございます。

例えば今なんかは、いろんな実験、この部会も含めて御紹介させていただいたかもしれませんが、ルーティングですとか、そういう形の中で、様々計算をしていくエンジンなんかもございまして、これ、配達先やゆうパックの配達なんかで少し研究しておるようなものもありますけれども、例えばそのポストの位置というのを、こっちをこっちにしたときに、理論上は、その部分の固定的なルートの中で、リロケーションによってどれぐらいのルートの効率化が図れるかみたいなことを検証していくというのは技術的にも可能かなと思いますし、幾つかちょっとそういう、どちらかというところと少し今まで御紹介していたとおり、このポストのところの改廃ですとか、あるいは移設ですとかいうようなものについては、どちらかというところと私ども自身が能動的に、恣意的にというような言い方が適切かどうか分かりませんが、能動的にそれを何か進めてくるというよりも、もちろん地域の様々なインフラという観点もありますので、どちらかというところと少し慎重に、受動的に、その部分のアクセスですとか利便性というものを最優先にして、我々からの能動的な移設ですとか、改廃ですとか、度数の見直し、そういうものも含めて少し慎重に、我々として、スタンスとして来たかなという部分はあります。

これは、このような場もそうですし、まさに国の規制のところの当局も含めて、あるいは有識者の皆様ですとか、利用者の方ですとかと様々議論をしていく中で、一方で、今も委員からも御指摘いただきましたけれども、非常に事業を取り巻く環境ですとか、あるいは2024年問題じゃないですけども、人手不足ですとか、物流の分野で、この事業をサステナブルに運営していくというところに対しての課題というのが強まってきたり、そういう社会環境にあって、利用の実態やそういうものも、かなり環境が変わってきている部分もございます。

そういうことでいうと、例えばその部分に対して、もう少しプロアクティブに、私ども自身がそういうものも含めて考えていく。その中で、例えばその一つの実証として、ポストの利便性や、そういうものの中では若干凸凹があるのかもしれませんが、そ



この中でリロケーションを、例えば理想的に、物流視点の中で、少なくとも机上で、物流観点だけの中で申し上げたときに、そこの移設によって、例えばこれぐらいの効果が出るみたいな部分についてはシミュレーションしていくとかいうことは少し能動的に取り組んでいくというのはあるのかな。そういうところも含めて、成功例を皆さんともやり取りをさせていただく中で、例えば御理解がいただけるのであれば、そういう形の移設というのでも進めていく。

ただ、移設といってもなかなか、先ほど来申し上げているとおり、単位回数当たりのものに対して、一方で、移設に伴う、抜いて差すという部分のコストというのも一定程度かかってくる場所もあるので、なかなか単位当たりでそういうものが、ルーティンを含めた、そういう形の中での日々の効率化効果と、そこのところのイニシャルのところでの改廃を伴うコストというの、ちょっとこれも慎重に見極めていかなきゃいけないという部分が、ジレンマとしてはあるのかなと思っていますけれども、いずれにしても、委員にいただいたような御示唆も含めて、この物流の視点とか、いろんな話というの、ちょっと入れながら、業務の観点も入れながら、ポストのロケーションの在り方を考えていくというのは、会社としてはぜひそういうところも含めて議論させていただけるとありがたいというのが全体的なスタンスかなと思います。お答えになっていますでしょうか。ありがとうございます。

○米山部会長　　どうもありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

ないようでしたら、もう1点だけ、私、郵便ポストは個人的には大好きで、とくに古典的なポストは好きなんですけれども、ポストがスマートなポストになるということはとても大事なことだと思います。先ほどの太陽光を利用したり、いろんな形でスマートになるというのは大事だと思いますが、差し当たってポストのできることってないかなと思って、思いつき程度に考えてみたのですけれども。

例えば、ポストにQRコードやバーコードを貼って、その周辺地図、あるいは生活情報、あるいはレストラン情報、そういったものをスマホで読み取れるような形にするとか考えられないでしょうか。これはスマートとはいえませんが、バーコード貼るだけです、そんなに難しいことじゃないと思います。問題は、そのソフトを郵便局さんだけでやるのではなく、地域だとか、コミュニティとかを巻き込んでいくことで、コミュニティ的な結びつきを強くする一つの場としてポストを利用するという可能性もあるんじゃない

ないかなと思ったんですけれども、その辺、いかがでしょうか。

○五味執行役員 米山部会長、ありがとうございます。非常に貴重な重要な御指摘だと思いますけれども、ある意味で、おっしゃっていただいたような形で、ポストに例えばバーコードですとかQRコードというのをつけながら、典型的には観光みたいな、地域の飲食店含めた、こういう形の情報でございますとか、あるいはその地域の地図みたいなものとか、あるいはハザードマップというか、防災の中での避難経路だとか、そういうものも含めて、その地域の、その場所に根差しているからこそその発信する情報みたいなところのハブみたいな形になれないかというのは、非常に発想としては重要で、そういう用途というのものもあるかなというところで、今、実はおっしゃったように、コンテンツづくりみたいなのが非常に重要で、そういうようなことも含めてやっていかなきゃいけないんですけれども、自治体からの依頼なんか受けて、幾つかの自治体さんとコラボする中で、そういう発信用のQRや、そういうものを貼ってという形のものを実際に幾つかのところで作らせていただいている事例というのは今も含めてあるんですね。

よりデジタルのところかというと、それを通ったときに、例えばこれは構想段階ですけども、観光情報で、それをやっている人、通った人たちに対して、それをお勧めで、もう少し能動的に発信できないかというようなこと、それは郵便局でもそうなのですが、郵便局やポストでそういうことができないかという形のアイデアもあるのですが、少なくともQRを貼るだとかいう部分については、一定ちょっとやっている事例なんかもございます。またその用途だとか、そこの中での反響だとか、それを広げられるほどの話になるかだとか、一方で、そこの中での事業性との兼ね合いでいうと、マネタイズだとか、そこら辺のところには直接というのはなかなか難しい面があるのかなというところはあるんですけれども、いずれにしても委員のアイデア、まさにそういう形の発想に基づいて、幾つかのところの中で実証しているような形のケースというのもありますので、そのあたり、自治体の反響ですとかいうものも含めて、ちょっと見極めながら、より展開だとか、多機能、多用途化していくというか、より付加価値として、その地域のコミュニティハブといいますか、そういう形の中で役割を果たしていくというのは重要な視点かなと思っていますので、そういった視点も含めて、どういう取組ができるかというのは、いろいろアイデアいただきながら考えていきたいなと思っています。

○米山部会長 どうもありがとうございます。

郵便局全体として、かつてと比べて、地域からの愛され方というか、愛着というか、

そういったものが人によれば薄れているという指摘もある中で、ポスト一つ取っても、好きになってもらうというような日本郵便の努力は大事じゃないかなと感じた次第でございます。

ほかにはないでしょうか。 それでは、もう時間も来ましたので、ありがとうございました。

それでは、本日出席していただいております柘植副大臣から御意見をいただきたいと思っております。柘植副大臣、どうぞよろしく願いいたします。

○柘植副大臣 米山部会長はじめ、委員、皆様、本当にお疲れさまでございました。ありがとうございます。また、日本郵便の説明員の方々も大変ありがとうございました。

今日は一番国民の身近にあるポストの設置に関する検討会でございますので、私も大変関心を持って聞きました。

大きく委員から言われた内容を要約しますと、ポスト設置・維持に関するコストの面だとか、あるいは郵便サービス水準というものと、そのコストパフォーマンスをどうあるべきかと、あるいはポストの活用をしながら、どう収益性を上げていけるのかと、この他あったわけでございますけれども、一つ私が気になったことは、郵便ポストというのは、郵便法に定められた投函、いわゆるお客様が郵便を差し出す一つのツールとして、これは法的にもちゃんと、しっかり定められておる事項でございますので、なかなか撤去するだとか、難しい問題がありますけれども、しかし、そうはいえども、民間企業として、そこに係るコストをどう削減していくかということは極めて大事でありますので、こういう観点からも、しっかり議論をしてほしいなと思っております。

そして、ポストの活用でございますけれども、私が身近に感じておりました、いつも思うことは、全国に18万本あるポストをうまく活用しながら、それから収益上げてくる構造ができないのかというも考えております。なかなかこれは、今、日本郵便、当局も、なかなかいろんな規則等がありまして、厳しい規制を取っております。

例えば、今日もありましたように、ポストの上に物を置くにしても、これは一つ、いろんな民間企業からは、いろいろここに自分たちの会社のPR用品を置きたいとか、いろいろ要望あるんですけれども、なかなか会社はそれを認めようとしなないわけでありまして、それとか、私はポストの側面に、もう少し広告を出したほうがいいんじゃないかと。これは民間の、今、例えば、都市のバスだとか何かは、バスの車面を使って、今、タクシーでもそうですけれども、そういったことをやっておりますので、こういったこ

とによって、今のかかっているコストをどう補っていくかということ、もう少し弾力的に考えていけば、これは国民の大事なポストというものを現行法を維持していけると思います。

そういうことが一つと、それから、これはかねがね18万本というの、本当に必要なかということを考え合わせると、不必要なものもたくさんあるわけでございます。先ほど五味執行役員もおっしゃったように、ずっと過去からできた郵便ポストでありますので、過去との状況と今とはかなり大きく様相が変わっておりますので、そういったところはしっかり見直しをして、それは勇気を持って撤去していくというようなことも考えていいと思っております。

最後になりますけれども、郵便サービス、これはポストの設置というのは一つの郵便サービスの根幹でございますけれども、郵便サービスの水準というものを、国民の皆様方がどういうふうに理解をして、そういったものを受け入れてくれるかと。かつて週休の6日配達を1日やめたことによって、かなり多くの国民の皆さん方から批判を受けました。これもサービスの一環でございます。

しかし、サービス水準と日本郵便という会社の収益構造というものは非常に深くリンクをいたしておりますので、民間企業になった現在、そういったところをしっかりと見据えた形で、もう少し大胆に、日本郵便も、このサービスはここまで落としていかないと、今のユニバーサルサービスをしっかりと担保できないというようなことも、しっかりと国民の皆さんに投げかけていただいて、議論を深めていただければ大変ありがたいと思っております。

以上でございます。今日はどうもありがとうございました。

○米山部会長　どうもありがとうございました。

それでは、以上で本日の議題は終了いたしました。委員の皆様から何かございますでしょうか。

事務局から何かございますでしょうか。

○久保田総合通信管理室長　特にございません。

○米山部会長　ありがとうございます。

閉　　会

○米山部会長　それでは、本日の会議を終了いたします。次回の日程につきましては、事務局から御連絡差し上げますので、皆様、よろしく願いいたします。

以上で閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。